

Jミルクが2021年10月1日に公表した「需給見通し(※2021年7月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《年末年始に向けて業界一体となった対応を!!》

- ・10月の需給実績について、生乳生産は北海道・都府県ともに予測を上振れして好調に推移したが、飲用需要については、引き続き前年を下回っており、脱脂粉乳・バター等向の処理量は前年より大きく増加した。
- ・11月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比93.8%、Jミルク予測:前年比99.4%)については、統計が高めに出る傾向にあることを踏まえても、予測値から下振れして推移している可能性が高いと推察される。
- ・直近(12/6週)の牛乳類の家庭内消費については、前週(11/29週)から販売個数が減少し、引き続き低調に推移している。また、ヨーグルト類、家庭用バターについても前年を下回って推移している状況にある。
- ・家庭内需要は低調な販売状況が続いているものの、各団体や企業で消費拡大の取り組みが進められていることや、各メディアでも大きく取り上げられており、注目度が高まっていることを追い風に需要喚起に最大限取り組んでゆく必要がある。また、年末年始に最大限の処理体制を固めるべく、万全の準備を進めることも併せて重要となる。

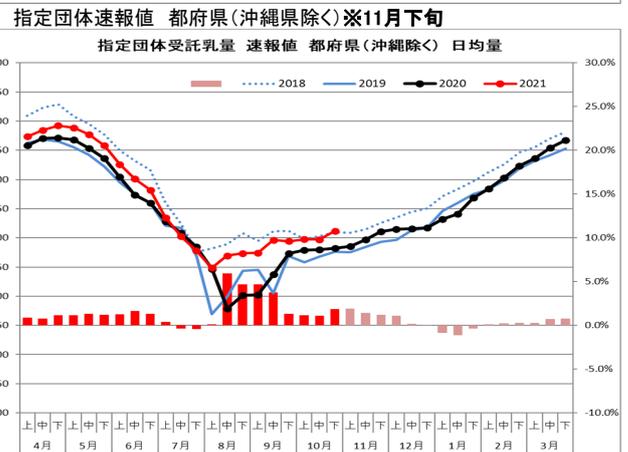
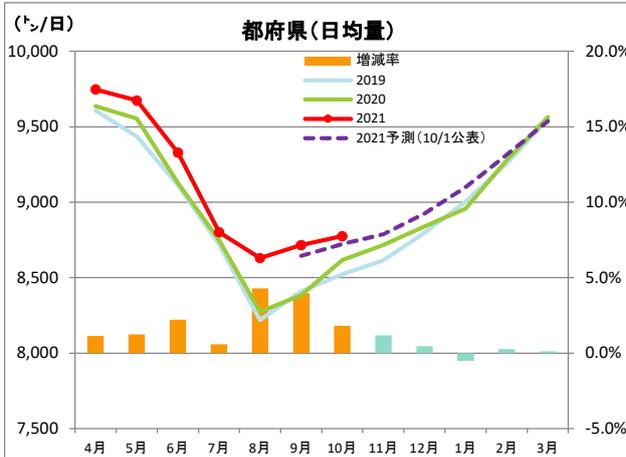
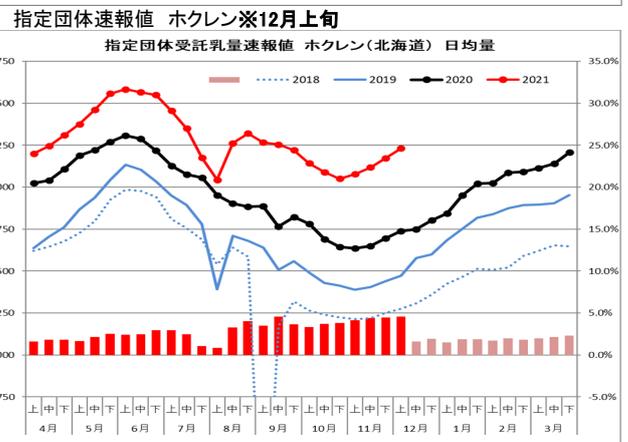
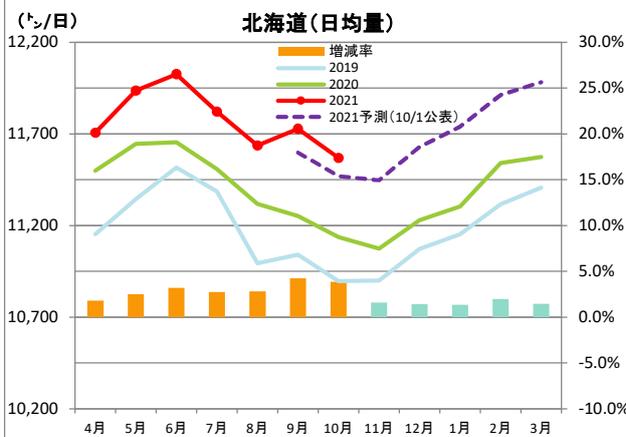
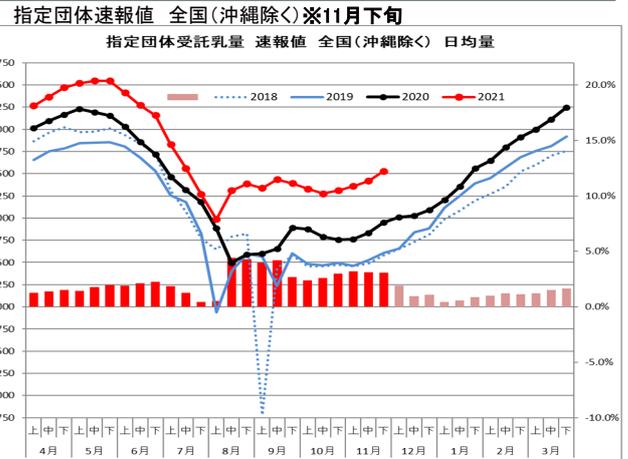
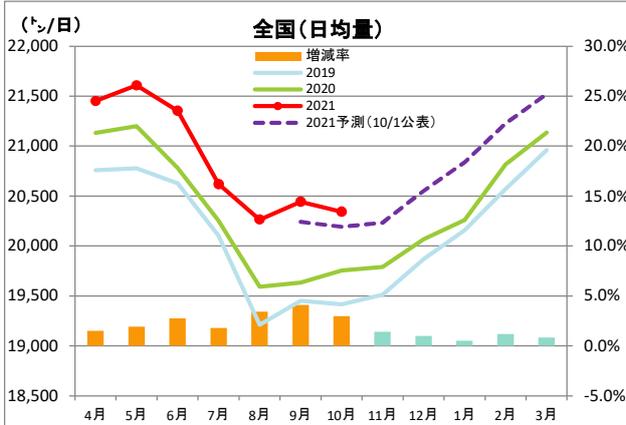
※[#大切なお願い -緊急牛乳消費促進に向けて-] <https://www.j-milk.jp/news/kinkyu2021.html>

【生乳生産量】※増減率は、日量で算出。

(1)10月の生乳生産量は、全国631千ト(前年同月比103.0%)、北海道359千ト(同103.9%)、都府県272千ト(同101.8%)。

(2)Jミルク予測値(全国:627千ト、北海道:356千ト、都府県270千ト)から北海道・都府県ともに上振れして推移している。

(3)直近の指定団体速報値によると、全国が同103.1%(11月下旬)、北海道が同104.6%(12月上旬)、都府県(沖縄除く)が同101.2%(11月下旬)。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

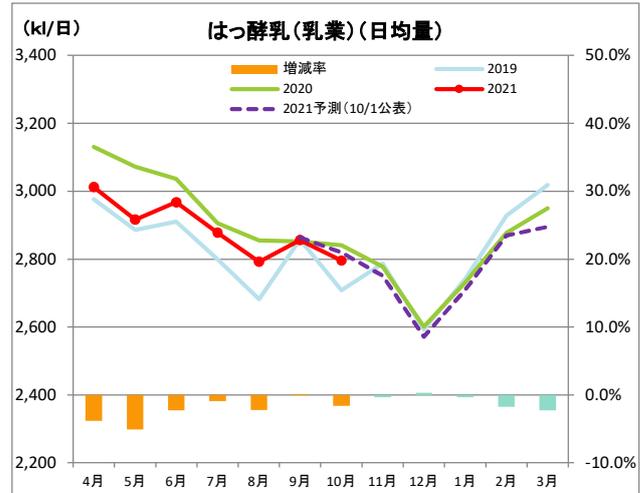
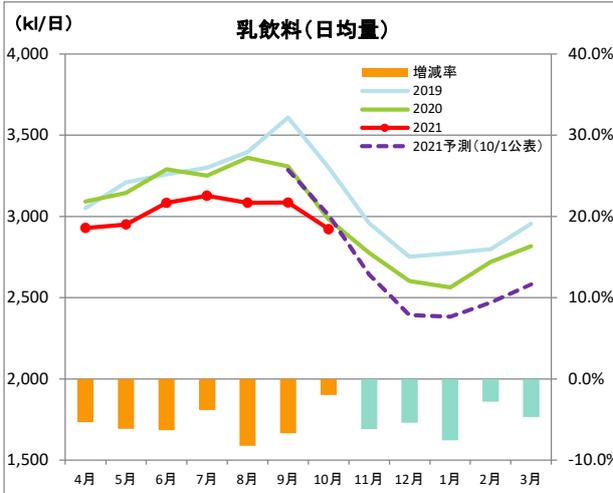
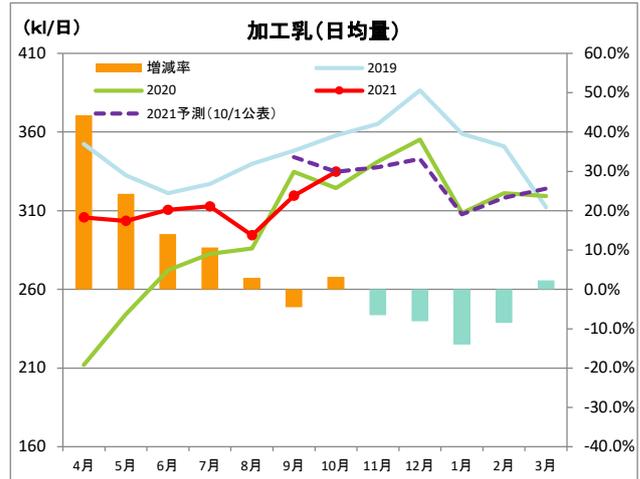
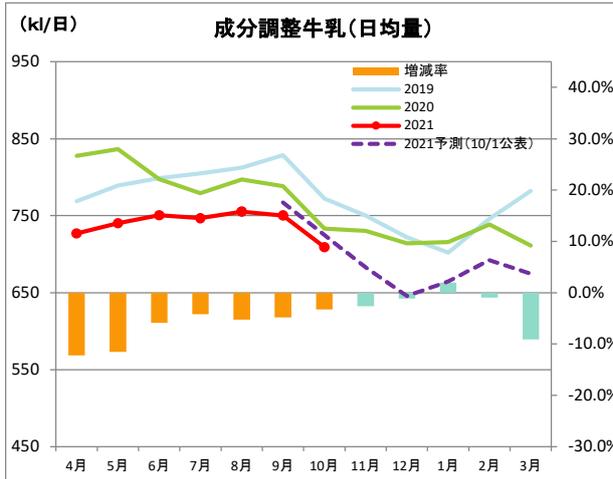
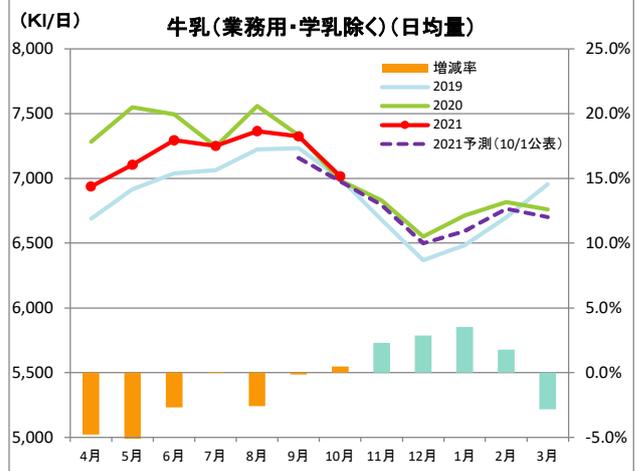
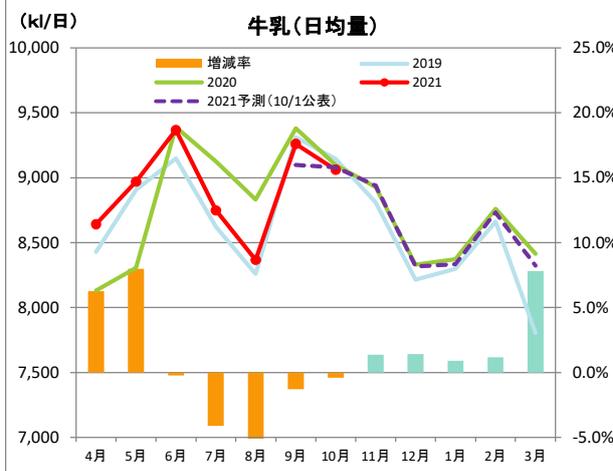
(1) 10月の牛乳等生産量は、牛乳281千kl(前年同月比99.6%)、成分調整牛乳22千kl(同96.7%)、加工乳10千kl(同102.9%)、乳飲料91千kl(同98.0%)となり、牛乳類合計では404千kl(同99.2%)となった。

なお、予測との比較では、牛乳は同程度で推移しているが、成分調整牛乳・乳飲料は下振れしている。

(2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.5%、「業務用」は同99.3%。

(3) はっ酵乳(乳業)は87千kl(同98.4%)と前年を下回って推移している。

また、非乳業実績(9月)については、同100.2%と前年並みで推移している。

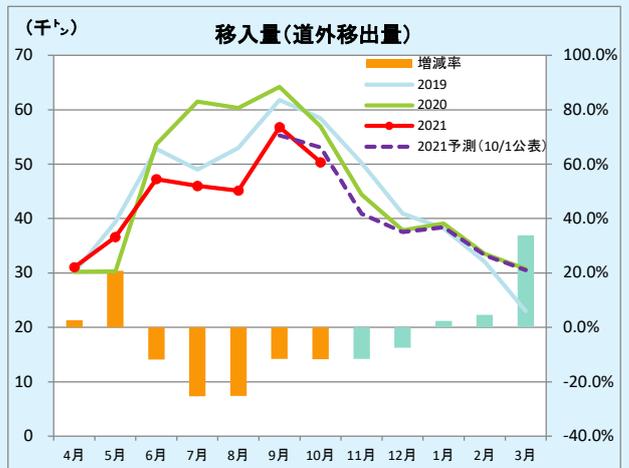
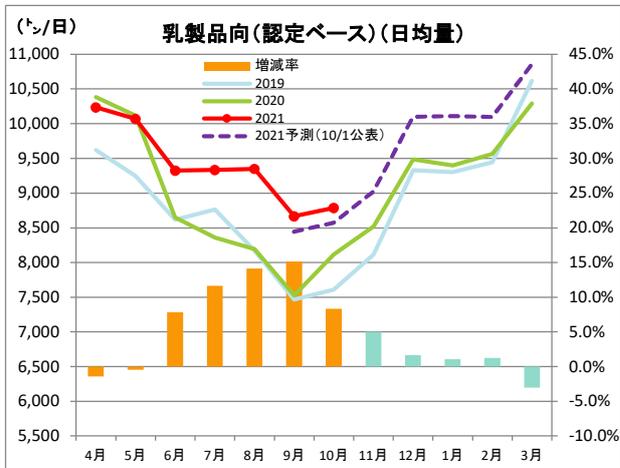
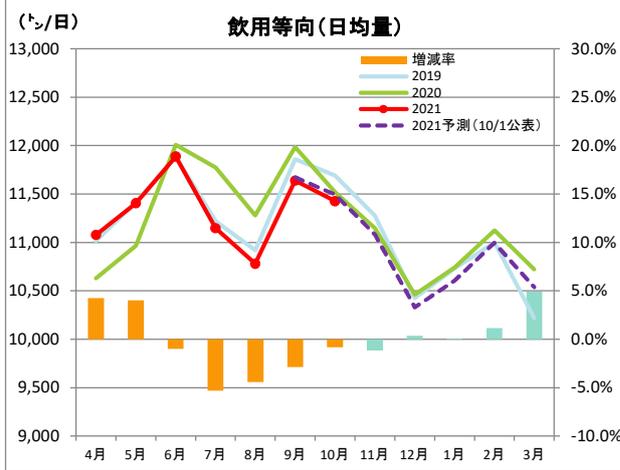
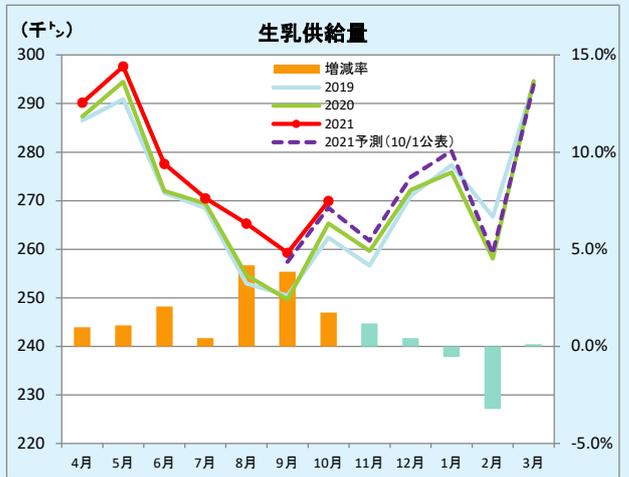
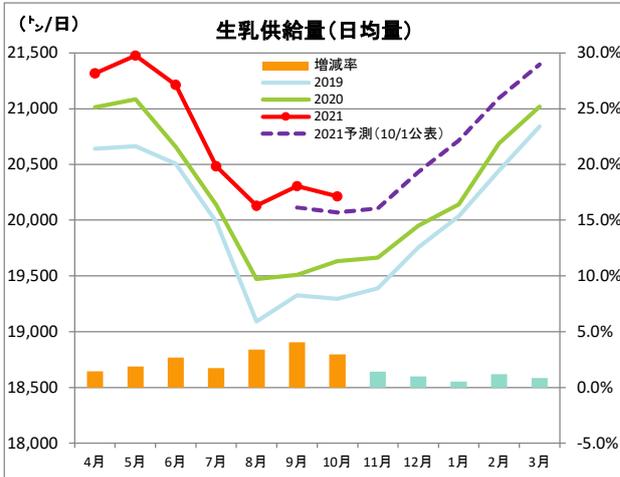


【用途別処理量】※増減率は、日均量で算出。

(1) 10月の生乳供給量は627千ト(前年同月比103.0%)、飲用等向354千ト(同99.2%)、乳製品向(認定ベース)272千ト(同108.3%)。
 (2) 予測値との比較では、飲用等向(予測値:356千ト)は同程度、生乳供給量(予測値:622千ト)と乳製品向(予測値:266千ト)は上振れで推移している。

【都府県の生乳需給】

(1) 10月は、生乳供給量270千ト(前年同月比101.7%)、牛乳等向300千ト(同99.0%)。
 (2) 北海道からの移入量について、50千ト(同88.3%)と前年大きく下回った。
 (3) 予測値との比較では、生乳供給量(予測値:269千ト)は同程度も、牛乳等向(予測値:308千ト)、北海道からの移入量(予測値:53千ト)は下振れで推移している。



【脱脂粉乳・バター需給】

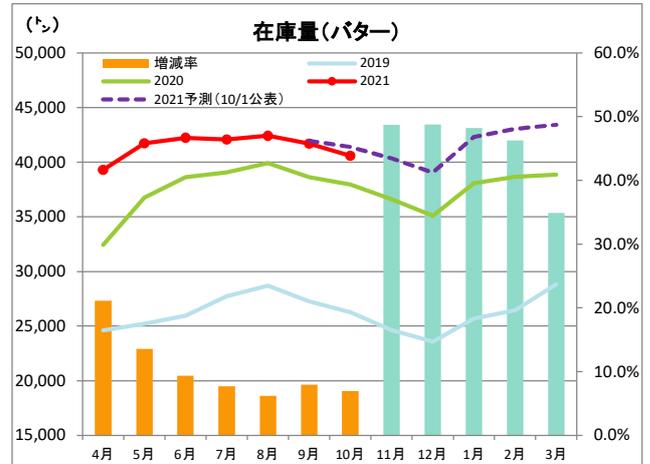
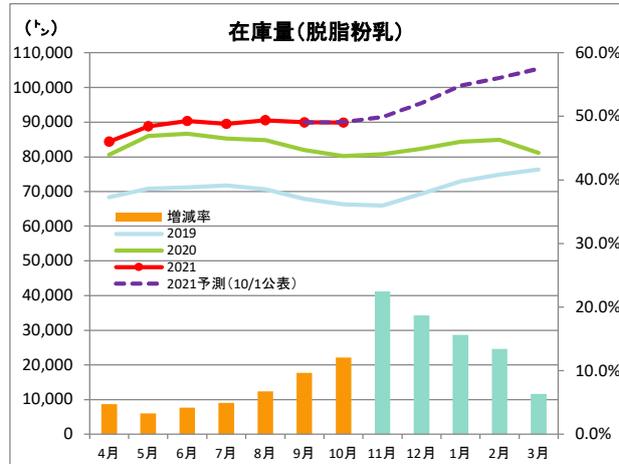
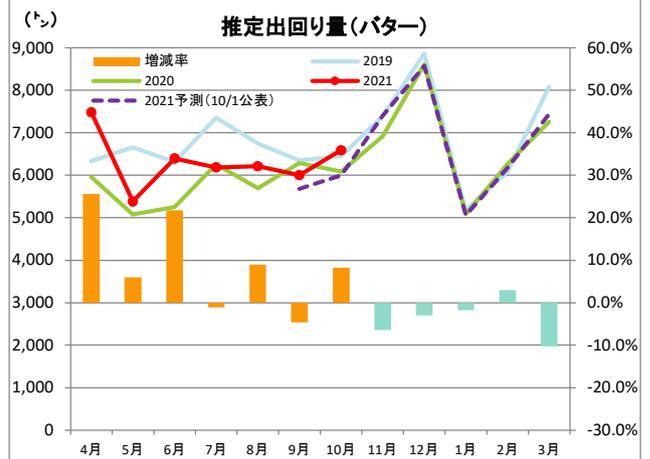
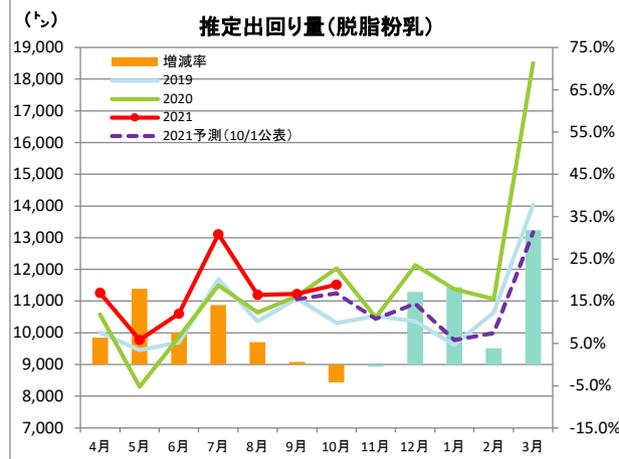
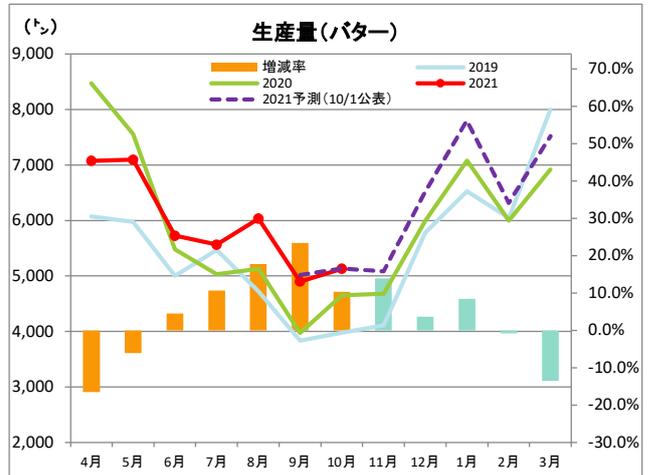
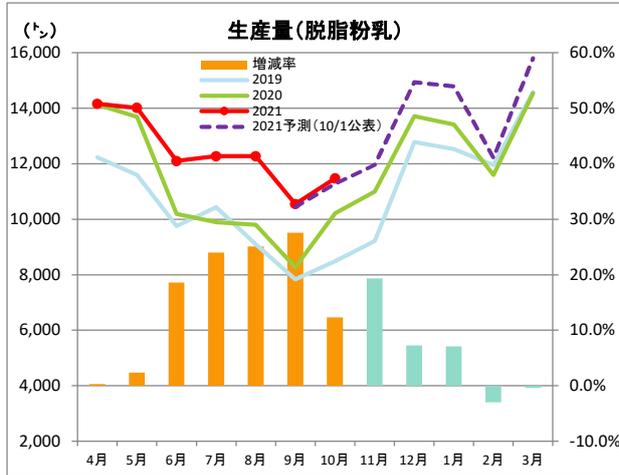
(1)脱脂粉乳は、10月の生産量は11.5千トン(前年同月比112.3%)、推定出回り量は11.5千トン(同95.8%)、その結果、在庫量は89.8千トン(同112.1%)。推定出回り量(≒需要量)は前年を下回って推移している。

なお、予測値との比較では、推定出回り量(予測値:11.2千トン)は若干上振れして推移している。

(2)バターは、10月の生産量は5.1千トン(同110.3%)、推定出回り量は6.6千トン(同108.2%)、その結果、在庫量は40.6千トン(同106.9%)。

推定出回り量(≒需要量)は前年を上回って推移している。

なお、予測値との比較では、推定出回り量(予測値:6.0千トン)は上振れして推移している。



【牛乳類の販売速報(推定値): インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)11月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比93.8%、成分調整牛乳:同92.2%、加工乳:同99.0%、乳飲料:同89.2%。

牛乳類では同93.1%

【参考】2019年度比…牛乳:98.6%、成分調整牛乳:92.9%、加工乳:91.1%、乳飲料:87.5%(牛乳類トータル:96.2%)

・販売単価は、牛乳:189.3円、成分調整牛乳:172.5円、加工乳:189.4円、乳飲料:149.9円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(12/6週)の販売個数は、牛乳:前年同期比93.6%、成分調整牛乳:同90.7%、加工乳:同97.1%、乳飲料:同89.2%。

牛乳類トータルでは同92.8%

【参考】2019年度比…牛乳:97.4%、成分調整牛乳:92.5%、加工乳:92.6%、乳飲料:88.1%(牛乳類トータル:95.5%)

・販売単価は、牛乳:189.4円、成分調整牛乳:172.5円、加工乳:189.4円、乳飲料:149.9円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

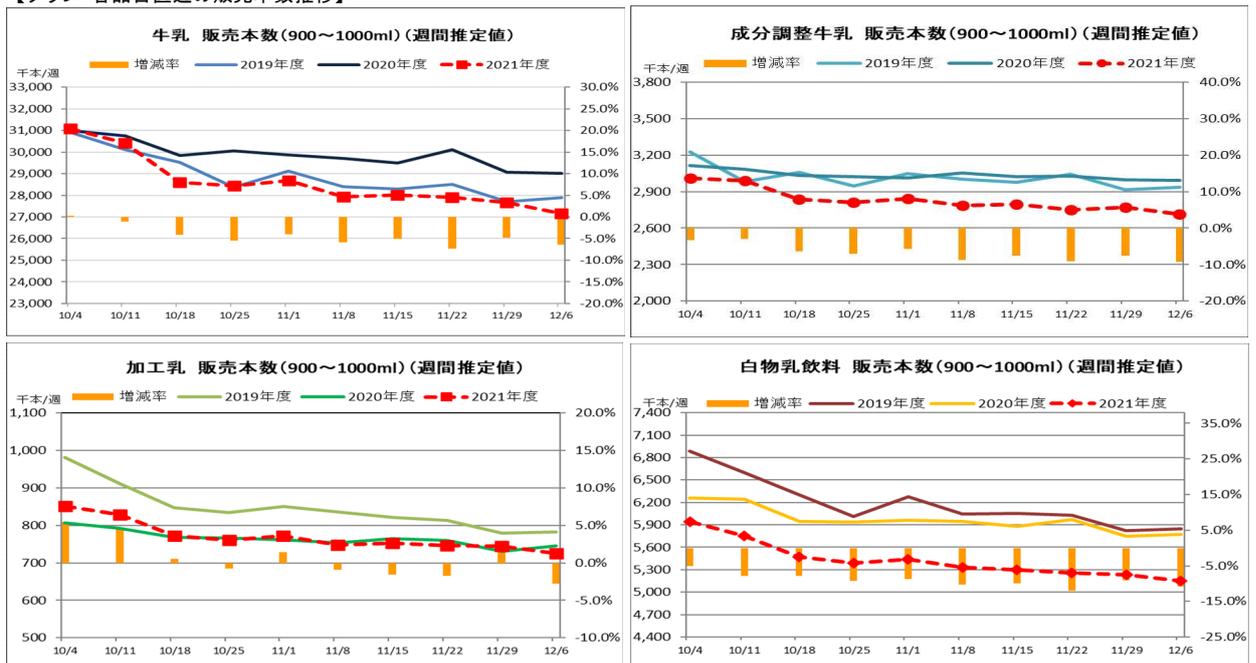
単位:千個、円

品目	区分	2021/7-	2021/8-	2021/9-	2021/10-	2021/11-
		販売個数	188,734	193,843	179,996	174,398
トータル	販売個数前年比	98.2	94.6	95.9	97.1	93.1
	販売単価	183.0	183.5	182.9	182.7	182.3
牛乳	販売個数	143,919	147,756	136,745	132,568	120,235
	販売個数前年比	99.8	95.5	97.7	98.0	93.8
成分調整牛乳	販売個数	13,921	14,478	13,642	13,065	11,987
	販売個数前年比	98.0	98.2	96.4	96.2	92.2
加工乳	販売個数	3,804	3,958	3,676	3,576	3,236
	販売個数前年比	96.6	97.2	94.6	102.7	99.0
乳飲料	販売個数	27,090	27,651	25,934	25,190	22,804
	販売個数前年比	90.9	88.2	87.0	92.4	89.2
	販売単価	150.7	150.7	150.4	150.0	149.9

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	10.18-	10.25-	11.1-	11.8-	11.15-	11.22-	11.29-	12.6-
		販売個数	37,676	37,399	37,722	36,809	36,859	36,669	36,410
トータル	販売個数前年比	95.2	94.0	95.2	93.3	94.1	92.0	94.5	92.8
	販売単価	182.6	182.5	182.2	182.2	182.3	182.4	182.3	182.4
牛乳	販売個数	28,593	28,440	28,669	27,944	28,016	27,913	27,664	27,171
	販売個数前年比	95.8	94.6	96.0	94.1	95.0	92.7	95.2	93.6
成分調整牛乳	販売個数	2,838	2,810	2,841	2,788	2,795	2,752	2,770	2,714
	販売個数前年比	93.6	92.9	94.3	91.3	92.4	90.9	92.5	90.7
加工乳	販売個数	772	761	772	747	752	746	744	725
	販売個数前年比	100.5	99.2	101.4	99.1	98.4	98.2	101.8	97.1
乳飲料	販売個数	5,473	5,389	5,441	5,329	5,296	5,257	5,233	5,151
	販売個数前年比	92.1	90.8	91.3	89.7	90.0	88.1	91.0	89.2
	販売単価	149.9	149.6	149.9	149.9	149.8	150.0	150.1	149.9

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(12/6週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)全ての品目で前週(11/29週)と同程度の水準で推移している。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	10.18-	10.25-	11.1-	11.8-	11.15-	11.22-	11.29-	12.6-
ドリンクタイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉
個食タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉
大容量タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉

 :前年比90%未満

 :前年比105%以上110%未満

 :前年比90%以上100%未満

 :前年比110%以上120%未満

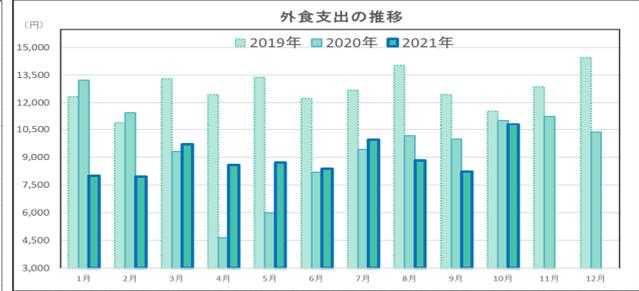
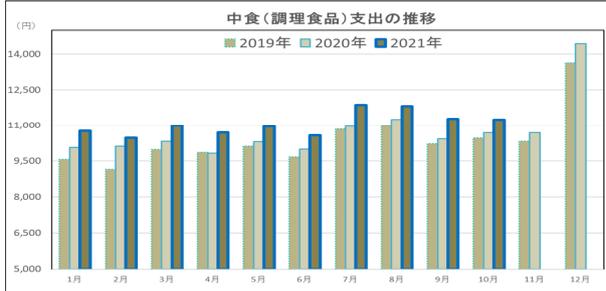
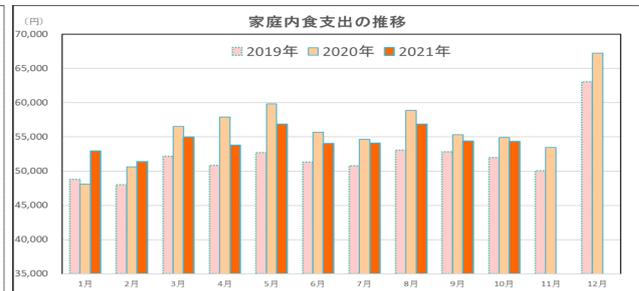
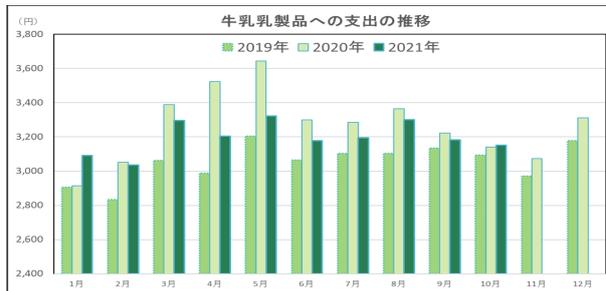
 :前年比100%以上105%未満

 :前年比120%以上

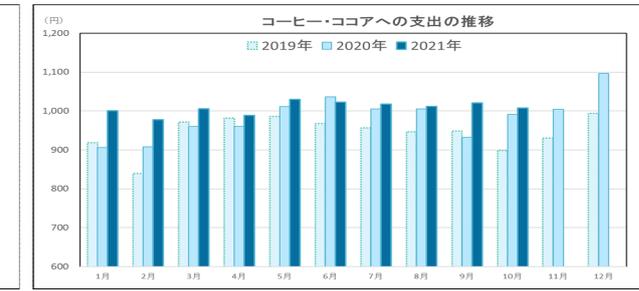
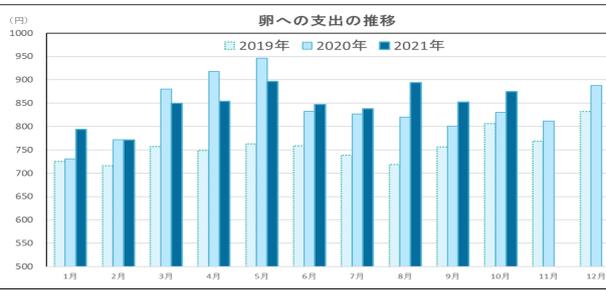
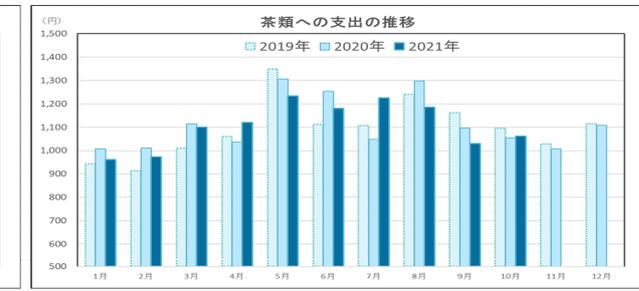
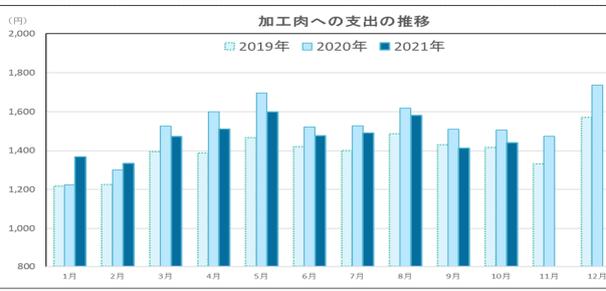
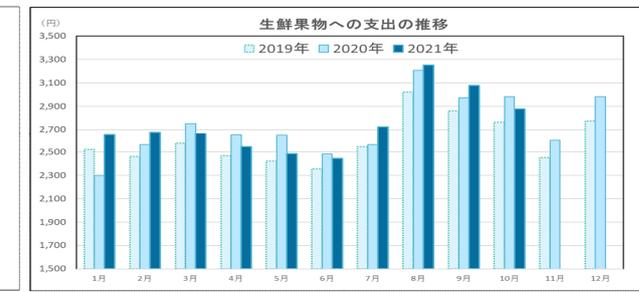
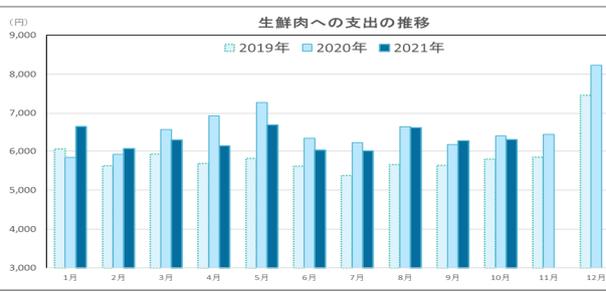
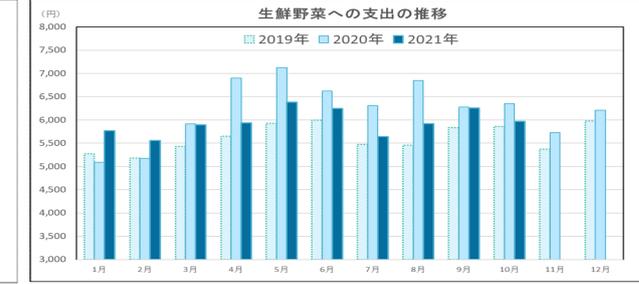
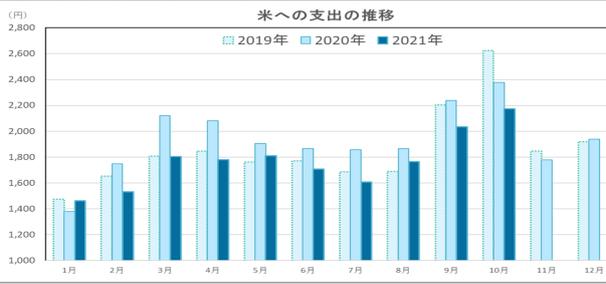
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家計支出の動向】

(1)牛乳乳製品の支出額について、前年同月を(前年比:100.3%、2019年度比:101.9%)。
 (2)制限措置は解除されたものの、外食は前年比98.1%と引き続き前年を下回って推移している。
 ※総務省家計調査(家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



【家畜販売価格動向】

(1)11月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は577千円(前年同期比79.3%)、育成牛価格は295千円(同73.2%)、和牛素牛(去勢)価格は810千円(同104.4%)、F1素牛(去勢)価格は393千円(同88.5%)、F1初生(雄)価格は182千円(同127.6%)。
 (2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同103.2%、育成牛:同121.9%。また、F1素牛(去勢):同113.8%は前年を上回ったが、和牛素牛(去勢):同92.7%、F1初生(雄):同89.8%と前年を大きく下回った。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値 (<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

